最先端と伝統の施設を知る

最先端研究・教育施設

指定国立大学法人構想、基本方針「世界に輝く研究大学を目指して」に挙げている取組を実施する部局等施設の例をご紹介します。

iPS細胞研究所（CiRA）
www.cira.kyoto-u.ac.jp

高等研究院（KUIAS）　kuias.kyoto-u.ac.jp
物質ー細胞統合システム拠点（iCeMS）、ヒト生物学高等研究拠点（ASHBi）

がん免疫総合研究センター（CCII）
www.ccii.med.kyoto-u.ac.jp/

医学部附属病院 先端医療研究開発機構（iACT）
iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp

国際高等教育院　www.z.k.kyoto-u.ac.jp

国際科学イノベーション棟（成長戦略本部他）

重要文化財と登録有形文化財

京都大学には重要文化財として指定されている1施設、登録有形文化財として登録されている12施設があります。

重要文化財（建造物）

清風荘　www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/facilities/photo/list/seihuso

明治末〜大正期に西園寺公望の私邸として建てられた近代和風建築。昭和19年に庭園とともに住友家より京都大学に寄贈され、現在は教育、迎賓、会議施設として利用されています。

登録有形文化財（建造物）

本部構内正門

明治26年、第三高等中学校正門として建設。門柱は石面と擬石面を交互に重ねています。現在は門の横に京都大学と書かれた学校銘板があり、入学式や卒業式の日の記念撮影スポットとなっています。

人文科学研究所附属 人文情報学創新センター

昭和5年建築。スパニッシュ・ミッション様式を基調に外観・内装ともに高密度のデザインが施され、塔付2階建の西棟と、平屋建の他棟が中庭を囲みロ字形平面を構成します。

楽友会館

大正14年建築。本学創立25周年記念の同窓会館。スパニッシュ・ミッションを基調としながら、Y字型の柱に支えられた円みをもつポーチ屋根が破調を与えています。家具と内部空調も大正建築の特徴を伝えています。

文学部陳列館

大正3年建築。ブローイングペディメントや楕円形の窓などネオバロックに傾倒しながらも、細部装飾にはセセッション的意匠が認められ大正期建築の特徴をも示しています。

旧農学部附属演習林事務室

昭和6年建築。スパニッシュ瓦葺、ベランダをめぐらしたバンガロー風の木造建築で、ベランダ天井の意匠などモダニズムの清新さ溢れる作品となっています。

京都大学の今［最先端と伝統の施設を知る］